

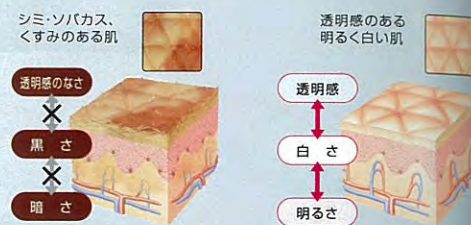
透明感の贅、潤いの悦

夏に受けた紫外線のダメージを残したまま、そろそろ乾燥も気になる季節。美白に加えて、保湿ケアもしなくては……と、スキンケアアイテムの見直しに迫られ、迷いがちなこの季節、美肌の達人二人がスキンケアの真髄を教えてくれる。

撮影/藤沢靖子(取材) 文/川原妃巳香 構成/國見 香

透明感×白さ×明るさ 三位一体が美しい肌色の条件

肌には美しい肌色に戻そうとする力「潤白美肌力」が備わっている。角質層の潤いを保つ力、表皮のメラニン色素を抑制する力、真皮の血行を促進する力がそれ。でも、紫外線や乾燥、ストレスなどのさまざまな外的要因でその力が弱まり、美しい肌色に戻れない状態に陥ってしまう。では、どうすれば美しい肌色を取り戻せるのか？ 肌色は、真皮の「明るさ」、表皮の「白さ」、角質層の「透明感」に影響を受ける。この3つの層を良好にすることが、美しい肌色の条件。



潤白美肌力

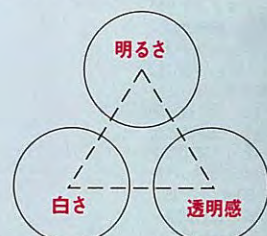
- 潤いを保つ
- メラニンの沈着を抑制する
- 血行を促進する

シミ、ソバカス、くすみのある肌。真皮の血行が悪く、表皮のメラノサイトが活発化。さらに角質層が水分不足を起こしている状態。

透明感のある明るく白い肌。真皮のすみずみまで血液が行き通り、メラノサイトの活動が落ち着き、角質層に水分が保たれている状態。

肌色3要素へのアプローチとは？

血流の影響を受けるのが明るさ。血行促進により肌の奥、真皮に張り巡らされている毛細血管の血液循環を高めることで、いきいきとした明るい肌に見える。



主に表皮にあるメラニンの状態で決定される。紫外線を阻止して、メラノサイトの過剰な動きを防ぐことで、白い素肌を守る。

角質層の保湿、保湿状態が透明感を左右。たっぷりと潤っていると、キメがきちんと整い、透明感とツヤのある肌に見える。

内側にあるいくつかの色の層が重なり合って現れる肌色。だから、アプローチには多色さが求められる。美白効果と紫外線防止効果で白さを保ち、血行促進効果で明るく健やかな肌に保つ。保湿効果と保湿効果で透明感を。さらに、肌を引き締め、ハリを与える効果や洗浄・除去効果などの間接的なアプローチも必要に。美しい肌色と、肌本来が持つ「潤白美肌力」を補うためには、多角的なケアが大前提となる。

美しい肌を掲げてみれば ケアの極意が見えてくる



片桐衣理先生

衣理クリニック院長。2002年に内科・皮膚科の衣理クリニック開業。現在抗加齢学会にて評議員を務め、身体の内外的アンチエイジングの普及に取り組む。今年10月には、表参道に総合アンチエイジング美容クリニックを開業。

「保湿して、その潤いをキープすることが美肌への一歩です。スペシャルケアはそれから」

女性がスキンケアに熱心なのは、もちろんキレイになりたいから。では、誰もが思う美しい肌とはどんな肌なのか？ 多くの女性の肌を見て触れてきた、美容のプロ2人が対談。理想の肌へ近づくために、今、何をすべきかがハッキリ見えてきた！

片桐先生(以下片桐)「みなさん美肌を目指してお手入れしていると、思いますが、潤いがあり、くすみや色ムラのない肌こそ美しい肌といえますよね」

永富さん(以下永富)「そうですね。みずみずしい肌には透明感があります。そして、キレイな肌色には血行の良さも重要。代謝が良いからターンオーバーもスムーズ。結果、シミやシワ、毛穴のトラブルなんかも寄せ付けない！でも、実際には潤い不足で、しかもそれに気付いてない人が多いですね」

片桐「そうですね。クリニックを訪れる方も、毛穴の開き、目元の小ジワ、シミなどの悩みを訴える方が多いんですが、これらの悩みは、ほとんどが肌の乾燥を含む皮膚代謝の低下が原因。でもそれに気づかず、シミやシワなどの悩みに特化した、その先のケアをしてしまっている人が多いんです」

永富「高機能なものを効かせるには、肌のベースが整っていないと、その効果が十分に発揮されません」

まずは保湿を十分に行うケアが大切なのに本末転倒になってしまっているんですよ」

片桐「はい。悩みを持っている人は、ベースの大切さを忘れがち。きつと焦ってしまっているんですよ。さらに、乾燥から抜け出せないくつかの理由があり、10代や20代前半のスキンケアを引きずり、さっぱり系のものを使う。乾燥しているからと油分の多いクリームばかりをたっぶり塗る。高機能アイテムを使っているから安心とばかり、化粧品の効果に頼りきっていることがあげられます。肌が好転しないのにスキンケアの見直しをせず、どんどん悪化させてしまっているんです」

永富「ケアの手順は踏んでいても、肌を確かめず、いつも通り行っただけで、自己流のクセから抜け出せない人も。サロンにいらした方、化粧水をたっぷり塗り、コレが潤っている肌状態ですよと教える」と、その柔らかさに驚かれる人も

「優秀な化粧品が増えたけど、アイテムだけに頼らず、効かせるお手入れが大事」

永富千晴さん

美容ジャーナリスト。過酷な日々を送りながらも美肌を死守。最新のコスメを試せるほか、スキンケアやメイクの相談が受けられる会員制サロン「club.C」主宰。



の、という心構えも必要。いつもの同アイテムでも、塗る量をパットによって調節したり、ローションをパットとして活用してみたり、クリームでマッサージしてみたり。どうすれば肌の状態が好転するか、いろいろと工夫してみてください」

片桐「それができるといえるならば、本当に肌はキレイになっていくと思います。お手入れ方法を指導して、自宅で行ってもらったらアイテムは替えていないのにトラブルが軽減した患者さんも多いですよ」

永富「化粧品を漫然と使うだけでは駄目。すぐに肌は変わらないうことを前提に、肌を長い目で見て化粧品を適切に使いこなす。さらに、お金をかけるだけではなく、手間をかけてあげることが大切です」

編集部「毎日の地道なケアこそが、実は、美肌への攻めのケアにつながっているんですね！」

花王ソフィーナから「潤白美肌力」をコンセプトにした

スキンケア“アルブラン”誕生！

撮影/戸田嘉昭(商品)、高橋ヒデキ(モデル) 遠田まゆ美(LUGAR) 文/川原妃巳香